第1回検討会意見とそれに対する見解

資料1

	委員名	分野	意見の内容	見解
1	島田委員	防災	高速道路周辺に避難場所を兼ねた緑地を整備をしては	活性化計画（素案）において、高速道路周辺に木材団地従事者等を対象とした津波避難場所を位置づけ、平時は緑地やにぎわい施設（産直市等）などとして活用できるものとしたいと考えている。
2	島田委員	防災	津波対策として、堤防の補強･嵩上げと団地入り口部の陸閘を整備しては	津波対策については、新たな土地利用に合わせ海岸保全施設の段階的な整備を行いたいと考えている。 なお、団地入り口部の陸こうについては、アクセス道路の検討に合わせ対策案を作成したいと考えている。
3	島田委員	防災	新町川側岸壁付近で護岸の整備が必要では	新たな土地利用に合わせ海岸保全施設の段階的な整備を行いたいと考えている。
4	島田委員	交流	マリーナや釣り堀等の海の公園を整備しては	活性化計画（素案）において、第１水面貯木場に民間活力の導入を見据えたボートパークを位置づけたいと考えている。 釣り堀については、一部の水面を活用した親水空間を有した緑地やボートパークの規模、配置等を検討する際に、事業（運営）主体をはじめその可能性について検討したいと考えている。
5	島田委員	交流	総合的運動公園（サッカー、野球場等）を整備しては	活性化計画（素案）において、緑地を位置づけ、広場の整備を行いたいと考えている。
6	島田委員	産業等	県有倉庫やオーシャン跡地の有効利用が必要では	水深5.5m岸壁背後の県有倉庫については、四国横断自動車道のルートにかかることから取り壊すこととなっている。 オーシャン跡地については、企業用地等への転換を図り、有効活用していきたいと考えている。
7	多田委員	防災	木材団地従事者の増加を見込んだ避難施設の整備を検討すべき	活性化計画策定後、事業実施に向けた検討を進める中で、需要調査結果等に基づき、新たな企業の立地により増加する従事者数やにぎわい施設等の利用者数を推計し、これらを見込んだ避難場所の整備を行いたいと考えている。
8	多田委員	交流 防災	ＩＣと合わせ避難施設となる｢道の駅｣､｢海の駅｣を整備しては	道の駅については、事業主体となる徳島市から市域全体の中で必要性、重要性を鑑み、総合的に検討したいとの回答をいただいており、水面貯木場の埋立等、整備を行う段階で、再度調整を行いたいと考えている。 また、海の駅についてもボートパークの整備を行う段階で、事業（運営）主体と調整を行いたいと考えている。
9	多田委員	防災	団地内の浸水被害を軽減するための排水設備を整備すべき	活性化計画策定後、水面貯木場の埋立等、整備を行う段階で内水被害軽減のための排水対策と親水空間の活用を行いたいと考えている。

	委員名	分野	意見の内容	見解
10	西島委員	交流	マリーナの計画への位置づけには、投資額の決定や放置艇への規制対策が重要	ボートパーク（マリーナ）の投資額については、実際の整備を見据える段階で、採算性等を十分に勘案し検討したいと考えている。 放置艇への規制対策は、徳島県放置艇削減計画を策定したところであり、まずは、暫定的係留保管場所を確保し、放置等禁止区域等の指定により罰則の適用等規制措置を講じて参りたい。
11	西島委員	防災	費用とのバランスの中で、企業立地に必要な防災対策を検討すべき	企業立地に必要な防災対策としては、津波避難場所の整備を行いたい。 また、水面貯木場を周辺地盤高より２ｍ程度高く造成するとともに、新たな土地利用に合わせ海岸保全施設の段階的な整備を行いたいと考えている。
12	端村委員	産業等	津田地区の活性化には、水面貯木場を埋め立てるべき	活性化計画（素案）において、第２、第３水面貯木場を埋め立てることにより、複合型先進拠点づくり等を位置づけたいと考えている。
13	端村委員	産業	津田地区にコンテナターミナルを整備しては	徳島県では、平成２３年３月にコンテナ船の大型化への対応や荷役機械能力やコンテナ作業ヤード不足による非効率な荷役作業の改善のため、沖洲（外）地区から赤石地区に移転している。 韓国・釜山とのコンテナ定期航路がこれまで週３便体制であったが、このうち長錦商船が運航する１便について、去る１２月４日から中国の天津・大連まで延伸されたところである。 引き続き「既存航路の充実強化」や、更なる「新規航路の開設」を目指し、積極的なポートセールス等に全力で取り組んで参りたい。
14	端村委員	交通	企業立地には、アクセス道路が複数必要	アクセス道路については、メインとなる県道津田インター線の強化が重要であると考えており、渋滞対策として交差点改良や歩行者等の安全性を向上させる施設整備を行いたいと考えている。
15	村上委員	その他	埋立による地盤沈下は想定しているか	埋立に伴う地盤沈下については、整備を行う段階でシミュレーションを実施したいと考えている。 既存埋立地については、埋立後時間が経過しており、沈下は収束している状況である。
16	横山委員	防災	新たな企業、レジャー施設の利用者の増加を見込んだ避難場所を検討すべき	活性化計画策定後、事業実施に向けた検討を進める中で、需要調査結果等に基づき、新たな企業の立地により増加する従事者数やにぎわい施設等の利用者数を推計し、これらを見込んだ避難場所の整備を行いたいと考えている。
17	横山委員	防災	団地内の道路が複雑であるため、徒歩での避難を考えた避難路の検討をすべき	避難路については、水面貯木場の埋立等、整備を行う段階で区画内道路の検討を行い、徳島市とも十分協議したいと考えている。

	委員名	分野	意見の内容	見解
18	山中会長	交流	「産業」「交流」について、施設等のターゲットを絞り、コンセプトを明確化すべき	「産業」については、活性化計画（素案）において「流通企業」や市街地にある「町工場」を対象業種として位置づけたいと考えている。 また、「交流」については、地元海産物を活かした産直市をはじめとする「にぎわい施設」や「緑地」、「ボートパーク」を位置づけたいと考えている。
19	山中会長	産業	先端的な企業を立地する場合は、商業系企業が立地できるよう用途地域の検討が必要	新たな埋立地の用途地域については、徳島市と十分に調整したいと考えている。